

1 学校経営の基本理念

港南小学校は、全教職員のもつ英知と能力を結集して、
現代社会を主体的に生きる子どもたちの健やかな成長を保障し、
保護者や地域の人々の信頼に応える教育を推進します。

2 教育目標

人間尊重の精神を培い、心身ともに健やかで広く世界に目を向けた、
個性豊かな意欲あふれる児童の育成を目指し、次のように教育目標
を設定します。

- ◎よく考えて学習する子・・・基礎的基本的学力を身に付け、自
分の力に合った学習課題をもち、解決しようとする子
- ◎すなおで心豊かな子・・・思いやりの気持ちをもち、友達や自分を大切に
する子
- ◎進んではたらき協力する子・・・みんなのためになる仕事に進んで
取り組み、友達と協力する子
- ◎健康でがんばりぬく子・・・様々なことを粘り強く最後までやりとげ、
進んで心身を鍛える子

3 教育目標具現化のための基本方針

(1)「よく考えて学習する子」について

- ① 各教科等の基礎的・基本的内容を重視するとともに、自ら学び、自分の考えを表現できるような学習指導を進めます。
- ② 発達の段階に応じて自分の力に合った学習課題を設定し、実践し、自己評価し、新たな課題を設定するといった一連の学習のサイクルを重視します。
- ③ 地域の施設や人材を活用したり、体験的な活動を重視したりして、自ら考え、課題を解決できるようにします。
- ◎ 特に各学年の算数の学習において、習熟度別少人数指導を取り入れ、子どもたち一人一人の力に合った指導をします。
- ◎ 本区漢字検定制度を活用して、自分の力に合った級を取得するために、進んで漢字の練習に取り組むようにします。

(2)「すなおで心豊かな子」について

- ① 偏見や差別、いじめを許さない指導を全教職員による体制で取り組み、子どもたちの人権感覚を培います。
- ② 高齢者や障害のある人との交流を通して、互いに理解を深め、かかわり合いながら生きていくことの大切さを理解できるようにします。
- ③ 全ての教育活動を通して、生きているものの命の大切さを理解させるとともに、他者や自分の生命の尊さを理解できるようにします。
- ◎ 異学年交流活動や港南幼稚園、港南中学校等との交流活動を通して、年長の子が年少の子を思いやり、年少の子が年長の子を慕う心情を養うようにします。

(3)「進んではたらき協力する子」「健康でがんばりぬく子」について

- ① 健康教育を推進するとともに、集団で取り組む体育学習を重視することを通して、体力を高めることの必要性を知らせ、心身ともに健康な子を育てるようにします。

- ② 当番や係活動、委員会活動を通して、進んで学級や学校全体のためになる仕事に取り組み、粘り強く最後までやりとげることができるようにします。
 - ③ 安全指導の徹底を図り、自分の命は自分で守る態度や能力を養います。
- ◎体育授業の充実とともに、業間時や放課後の運動を奨励します。

4 学校経営の重点と特色ある学校づくりに向けて

(1) 学級・学年経営の充実と指導力のさらなる向上

学校経営の基本は、学級・学年経営の充実にあります。学級間、担任と専科教員間、学年間の連携を密にしながら、自分の得意分野や専門性を発揮することによって、学級経営が質的に向上することはいうまでもありません。具体的には、・・・

- ① 子どもたち一人一人の個性や学習面における力をしっかり把握します。
- ② 子どもたち一人一人の力に合わせた学習指導や、行動の特徴に合った生活指導をします。

→だめなものは、だめ

- ③ 学級内に人権上の課題（言葉遣い、あだ名、仲間はずれ等）がないかを常に把握し、いじめや「物隠し」などがないようにします。

◎3人（4，5，6人）で3学級（4，5，6学級）を担当するという意識

(2) 開かれた学校づくり・オープンスペースの有効活用

- ① 原則として、毎日、毎時間授業を校内外に公開するものとしますが、学期に1回学校公開日を設け、いずれも土日を入れ、保護者の方が来校しやすいようにします。
- ② 保護者対象アンケートの内容を見直し、より学校・学級・学年経営に資する充実したものにします。

(3) 障害のある子どもたちの指導と障害者への理解

- ① 本校の特別支援学級（知的障害学級と肢体不自由学級）の児童に対して、十分な人的配置と適切な教材を活用した指導により、障害の程度に応じた成長が期待できます。
- ② 通常学級の子どもたちが、障害のある人々に対して理解し、ともに力を合わせながら生活することの大切さを指導してまいります。

(4) 学級編成替え

平成22年度末より、子どもたちの学習や学校生活の様子を見て、次年度に向けて全学年が学級編成替えを実施しました。

このことにより、子ども同士の間関係の固定化を防ぎ、子どもが相対的な自分の位置を決定することなく、「新たな気持ちで、新しいスタート」を切ることができるようになりました。

また、子どもたちが一人一人によって異なる個性やよさに多く触れ、考え方や行動の違いを徐々に受け入れることができるようになりました。